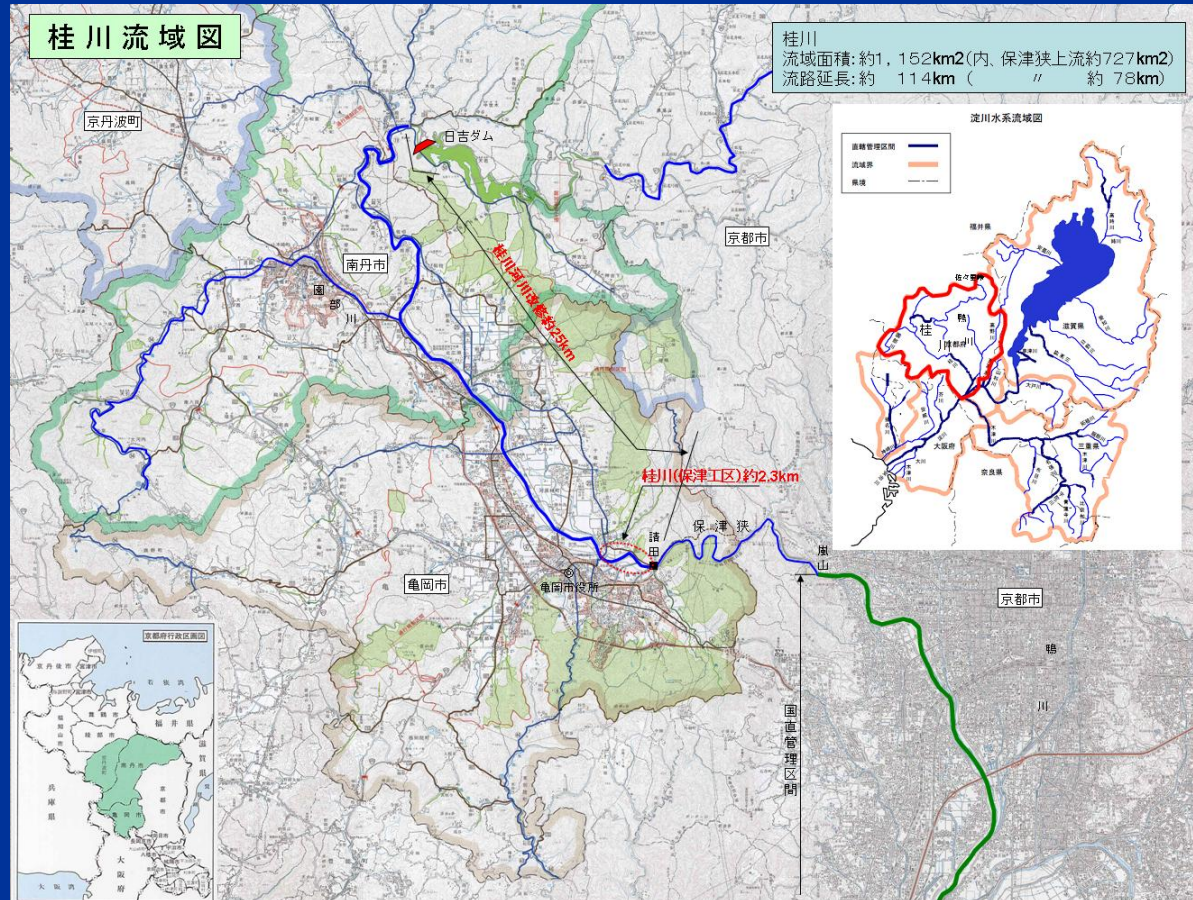


2. 河川と流域の概要

保津川の概要

- 保津川(桂川)は、淀川水系の三大支川の一つ。
- 丹波山地東部に源を発し、南丹市、亀岡市を経て、保津峡、嵐山を流下し、大山崎付近で木津川、宇治川と合流して淀川となる。
- 流域面積は約1,100km²、幹線流路延長は114km。
- 大堰川の名称は、渡来人の秦氏が大堰川下流域に大堰を築いて開拓したことによるもので、古くから堰が数多くあった川ならではの名称。



保津川の歴史・文化

■ 保津川の水運

● 筏流し

長岡京・平安京の造営時に丹波の良質の天然木材を組んだ筏大堰川に流したのが筏流しの始まり。
室町時代末期には、ますます発展、秀吉は筏師に諸役を免除する朱印状を与える。



京都府立総合資料館蔵：黒川翠山コレクション

● 保津峡開削と舟運

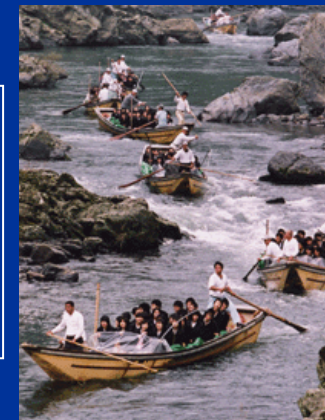
- 慶長11年(1606)角倉了以が私財を投じて世木から嵯峨までの保津川を開削。
- 筏流しによる材木運搬に加え、丹波の農作物などの物資の大量輸送が可能に。
- 上流の船荷は保津・山本で積み替えて保津峡を運び、地域の発展に寄与。
- 荷船が明治末ごろまで物資輸送の主体。昭和23年までは荷船が運航。



保津川遊船企業組合蔵

● 保津川下りの歴史

- 保津川下りは、明治末期に遊船観光事業として成立。
- その後、経営問題などの紆余曲折があったものの昭和45年に「保津川遊船企業組合」が発足し、船頭衆の努力で今日の保津川下りが確立した。
- 現在では亀岡市の主要な観光資源となっている。



亀岡市HP

■ 保津川に関する史跡など

● 請田神社・桑田神社

- 保津峡の入り口北側に請田神社、南側に桑田神社が鎮座し、両神社の境内から保津溪谷を見下ろせる。
- 祭神は、いずれも山の神・治水の神として知られる大山咋(おおやまくい)であり、伝承では保津川を挟んで向かいにある桑田神社からかつて、湖であったこの地を拓くための保津峡の開削を「請(う)けた」神様が、請田神社の祭神になったとも伝えられる。「請田(うけた)」の名は、この伝承に由来しているともいわれている。



請田神社

桑田神社



亀岡市HPより

● 石積み水制「上内膳・下内膳」

- 江戸期から今日に伝わる伝統的水害防止法の石積みの水制
- 亀山藩主の岡部内膳正長盛が農地の浸食を防ぐために設置。
この業績を称え、「内膳」の名が残る。
- 上内膳は20間(36m)、下内膳は50間(90m)あまりあったと言われているが、現在、下内膳は先端部が流出している。

■ 上内膳・下内膳の位置



上内膳



● 野橋立

- 年谷川の堤防上に真一文字に松並木が続いており、その様子を丹後の天橋立に見立て「野橋立」と呼ばれた。
- 土地では「千本松」と呼ばれたが、現在はその姿はない。
- 一説では、亀山城防禦の第一線として明智光秀が植えたとも言われる。



野橋立

亀岡市文化資料館第三回特別展展示図録より

保津川の自然環境

■ 保津川の動植物

(平成17年度の河川環境調査結果より)

● **植生**: 植生群落36区分。重要種7種確認。

○ 主な重要種: カワラハハコ、カワデシヤ、コガマ、ホザキノフサモ、ウキヤガラ



重要種: カワラハハコ



重要種: コガマ



重要種: ウキヤガラ

● **魚類**: 種数29種。重要種19種確認。

○ 主な重要種: アユモドキ、アカザ、メダカ、オヤナラム、スナヤツメ、イチモンジタナゴ



重要種: オヤナラム



重要種: イチモンジタナゴ



重要種: スナヤツメ

● **鳥類**: 種数79種。重要種47種確認。

○ 主な重要種: カイツブリ、チュウサギ、トラツグミ、イソシギ、イカルチドリ、オオヨシキリ



重要種: イカルチドリ



重要種: オオヨシキリ



重要種: カイツブリ

● **アユモドキ**

- 曾我谷川には国指定天然記念物の「アユモドキ」が生息。
- 日本では桂川その他岡山県の数河川でしか確認されていない学術的に重要な種。
- 地元と亀岡市を中心にアユモドキを保全・再生する取り組みが進行中。



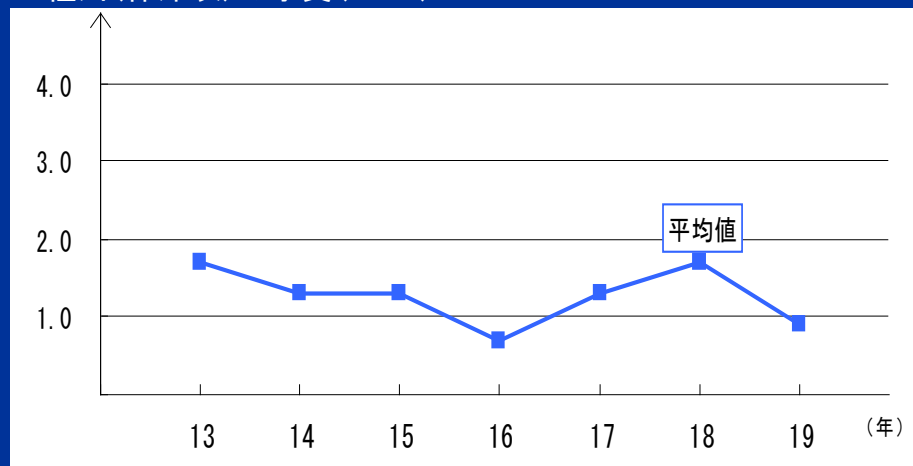
■ 水質

○桂川本川のBODの平均値は、
2.0mg/L以下で、環境基準のA類型
を満足し、溪流魚が生息できる水質。

○支川についても概ね桂川本川と同
度の良好な水質。

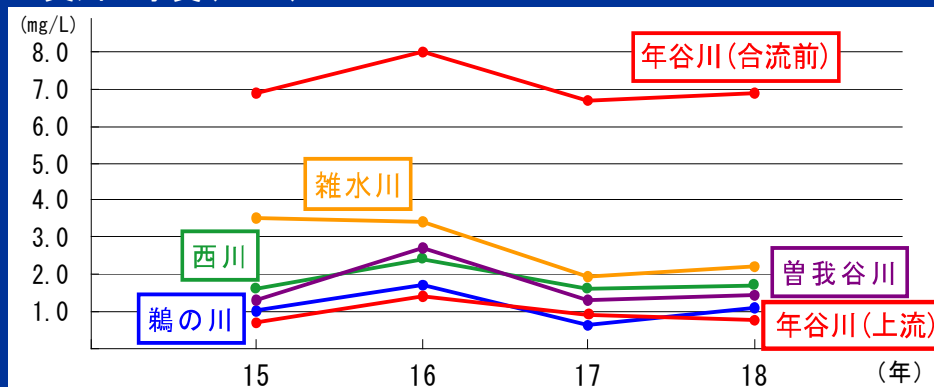
○雑水川・南郷池は近年水質の改善
が見られるが、A類型を若干上回る。

■桂川(保津峡)の水質(BOD)



京都府環境白書より

■支川の水質(BOD)



亀岡市環境白書より

保津川の利用

■ 農業利水

- 寛政11年頃の絵図には、亀岡市で最上流域に位置する寅天堰が描かれている。
- 明治38年頃には寅天堰から最下流の上中島堰まで7箇所の堰が設けられ、それぞれの地区の水田を潤していた。
- 昭和38年にこの7ヶ所の堰を統合した上桂川統合堰が旧寅天堰の直下に建設され、延長16.5kmの水路によって桂川760haの農地を潤している。

灌漑用水堰位置(明治期)



上桂川統合堰 幹線水路・受益地域



七堰を統合

■ 空間利用

カヌー



花火大会



南郷公園



ラフティング



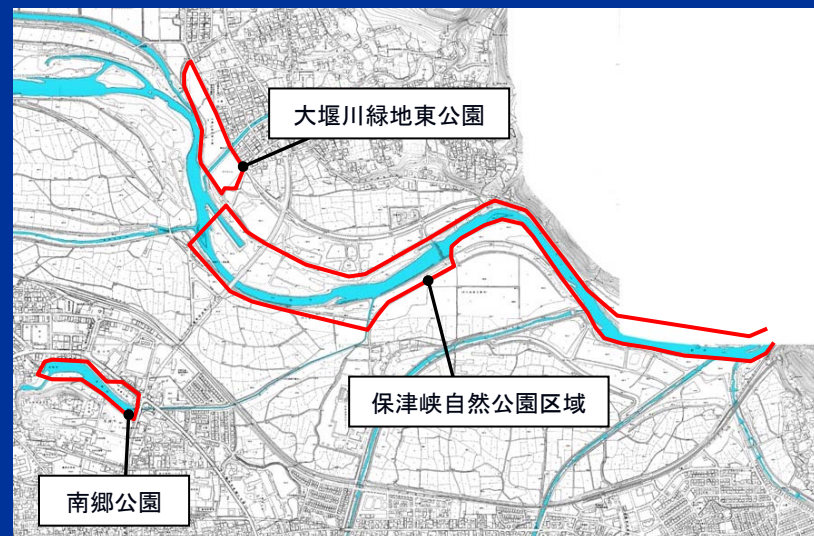
トロッコ列車



この他、釣りやレクリエーションなど、様々な利用が行われている。

■ 公園利用

- 亀岡市の保津橋付近から嵐山の 渡月橋に至る保津峡の区間(71.3ha)を保津峡自然公園に指定。
- 亀岡から嵐山に至る約16キロメートルの区間は激流や深淵が多く、ダイナミックな景観や四季折々の豊かな表情を見せる。



〈参考：現在の都市公園面積〉

上段：箇所数
下段：面積 (ha)

| | 運動公園 | 街区公園 | 近隣公園 | 総合公園 | 地区公園 | 風致公園 | その他 | 計 | 区域内人口(千人) | 1人当たり面積(m ² /人) |
|-----|------|------|------|------|------|------|-----|------|-----------|----------------------------|
| 亀岡市 | (1) | (22) | (2) | (3) | | — | (6) | (34) | 85 | 7.27 |
| | 14.8 | 5.4 | 1.5 | 39.1 | | | 0.9 | 61.8 | | |

* 亀岡市整備目標水準 33.0 m²/人 (H27)



京都府HPより